



第39回戦国肥後国衆まつり

2月14日(日)、和木町多目的広場で、第39回戦国肥後国衆まつりが開催されました。前日からの雨で天候が心配される中での開催でしたが、なんとか天気も持ちこたえてくれて、会場は町内外から訪れたたくさんの方の来場者で埋め尽くされました。

まつりは、三加和地区の3つの保育園(神尾保育園・あおば保育園・春富保育園)による出し物で始まり、青年団による「肥後にわか」や商工会青年部による「戦国わらし飛ばし大会」、「玉名居合道菊水会演武」など多くのステージイベントで大盛り上がり。また、今回は特別出演として、「熊本城おもてなし武将隊」にも演舞を披露していただき、キレのある舞と話術に観客が殺到しました。

メインイベント「武者行列と国衆一揆の再現」では、鎧兜をまとった総勢69人の武者たちが入場すると、会場は緊迫した空気に。豊臣軍と和仁軍に分かれ、鉄砲戦や刀槍による殺陣で壮絶な戦いを再現しました。

もう1つの目玉イベント「戦陣修羅レース」では、子どもの部に19チーム、大人の部に17チーム、女性の部に6チームが出場。思い思いのコスチュームを身にまとい、商品や賞金をかけ、力強い走りタイムを競いました。

また、会場には所狭しと出店が並び、地元の農産物や工芸品、おいしい料理を販売。来場者の目やお腹を満たしました。

最後は、お楽しみ抽選会と紅白もち投げで締めくくられました。



肥後国衆一揆『田中城の戦い』

天正15年(1587年)豊臣秀吉の九州平定により肥後の領主となった佐々成政。成政が行った検地などの強引な政策に抵抗して肥後各地の国衆たちが起こした一揆が「肥後国衆一揆」です。これに激怒した秀吉が、九州支配の今後の見せしめとして、筑前・筑後の大名に命じて攻撃をかけ、肥後各地の国衆を滅ぼしていった。和仁氏は辺春氏とともに、田中城に籠城して抗戦しました。和仁一族は、小早川秀包を総大将とする安国寺、立花、鍋島などの1万の大軍に対し、1千あまりの軍勢で約2か月間を戦い抜きましたが、ついに落城。秀吉はこの一揆後、全国に「刀狩令」を発布したといわれています。

これが今もなお日本歴史上大きく位置づけられている「田中城の戦い」です。

悲しき娘の物語 『南蛮毛物語』

和木町上和仁地区には、「南蛮毛」という字名があり、450年ほど前に「南蛮娘」が住んでいたという伝承があります。

「南蛮娘マリア」は、豊後の国キリシタン大名、大友宗麟により和仁人鬼親宗に出会い、和仁田中城での生活を送りました。南蛮娘にとっては言葉こそ十分には通じませんでした。楽しい生活を送っていました。

しかし、高温多湿な気候と、生活習慣の違いで、田中城に移り、一年たらずで病床につき、手厚い看護の甲斐なく、帰らぬ人となってしまいました。

